

(参考)

ディスカバリーエリア選定に係る参考データについて

1 ショックとストレスの認識

100RC応募時の本市の認識のほか、アジェンダセッティング・ワークショップ（以下「ASW」という。）事前アンケート、各種会合等でのアンケート実施により、本市における重要なショックとストレスに対する認識を把握しました。

(1) 京都市の認識（100RC 応募時）

ショック	ストレス
1 地震	1 人口減少
2 降雨災害	2 人口高齢化
3 土砂崩れ	3 インフラ老朽化
4 サイバー攻撃	

(2) ASW 事前アンケート結果（回答数 82 名）

ショック	ストレス
1 地震	1 少子高齢化
2 降雨災害	2 地域のつながりの欠如
3 火災	3 インフラ老朽化
4 台風・暴風雨	4 住宅地や商店街の荒廃
5 テロ攻撃	5 人口減少

(3) 各種会合等でのアンケート結果（回答数 103 名）

ショック	ストレス
1 大規模地震	1 地域コミュニティの希薄化
2 洪水・河川の氾濫	2 少子高齢化
3 テロ攻撃	3 人口減少
4 集団感染	4 貧困・経済格差

概ね、ショックでは、「地震」、「降雨洪水」、ストレスでは、「人口減少」、「少子高齢化」、「地域コミュニティの希薄化」、「インフラ老朽化」といった項目が多く、これらは、本市の対応すべき課題として優先順位が高いと言えます。

なお、ASW でも、全10グループにおいて、ショックでは「地震」、ストレスでは「少子高齢化」との意見が最も多く挙げられたところです。

2 市民等によるショック・ストレスに関する意見

ASW, 29年度市民生活実感調査及び各種会合等でのアンケートの各結果から市民等の意見を把握しました。

(ASW 参加者 95 名, 市民生活実感調査回答数 1069 件, アンケート等 45 件)

① ASW での主な意見

「1 基本的な生活ニーズの充足」

- ・ 困らずに生活できる状態である。

「2 生計・雇用のサポートの充実」

- ・ 教育や子どもの貧困は難しい問題

- ・ 雇用促進の施策には目立ったものがない。施策としてあまり雇用に力を入れているわけではない
- ・ 非正規が多い
- ・ 時給が低い

「3. 保健医療・生活衛生の充実」

- ・ 検診はちゃんとできているかなどと考えると、地域に入っていくという部分では、後退しているかもしれない。

「4 地域コミュニティの活性化」

- ・ 京都はもともと地域力が高かったが、近年弱まってきているのではないかと課題
- ・ 今はよくても、後継者がいないことが問題
- ・ 今後の社会を考えていくと、地域の活動にもっと新しいひとを入れていく必要がある
- ・ 役所は色々と PR しているが、実際には手続が大変だったり、申請しても受入れられないことも多い。市の方針に合っていないと受け入れられない。
- ・ あるマンションの建設に反対した地元住民と、その後のマンション住民がともに地蔵盆や祇園祭を作り上げている例など、京都の地域にはやはり巻き込む力がある。

「5 安心・安全なまちづくりの推進」

—

「6. 経済・産業政策の推進，市の財政健全化（経営健全化）」

- ・ もっと取り組まなければいけないが、大企業の誘致は難しい。京都は中小企業が99%。これをどのようにサポートしていくかが課題
- ・ ベンチャーの促進は色々行われている一方で「おいてきぼり産業」のテコ入れの方法は、もっと色々あるのでは
- ・ 大学は多いが、京都で就職しようとするほどの魅力ある企業は少ないのでは
- ・ 大学や寺社は固定資産税を払わない。企業立地を考えないと、収入が少ないのでは？

「7. 環境保護及びインフラ等の整備」

- ・ 大地震に対する対策は万全ではない。橋の老朽化も課題
- ・ 景観は色々やっているが、防災の規制は弱いのでは
- ・ 木造で燃えやすい建物等が多く、ハード面での防災対応が難しいため、消防団等ソフト面での対応を充実させている。
- ・ 火災時に消防車が現場手前まで入り込むことができないほど狭い路地が多い

「8. 緊急時におけるインフラ・サービスの維持・活用」

- ・ 施設面の老朽化対策がされていない
- ・ 地震や洪水時には支援団体や病院，市役所自身が被災するため、まち全体として対策がもっと必要
- ・ 組織内でも緊急時の体制については取り決められるものの、通常の業務を遂行する中では優先順位が低くなり、緊張感のある意識を保ちにくい

「9. 通信手段，輸送網，公共交通等の提供」

- ・ 地下鉄が南北と東西一線ずつしかなく、車とバスに頼っている。
- ・ 地下鉄を通したら、バスがなくなって不便になった地域がある
- ・ 駐停車している車が多く、交通事故が身近で起こっている。
- ・ 郊外ではバスの本数が少なく、居住する高齢者にとっては利便性の低さが目立つ。

対照的に中心部では本数は多いものの、交通渋滞が見られる。観光都市としての側面も保ちながら、実際にそこに住む人のことを考えてほしい。

「10. 信頼性のある意思決定の推進」

- ・ 明確なビジョン・メッセージを首長が発信しているが、市民ベースではどれだけ取り組んでいるか疑問
- ・ 市はリーダーシップを発揮しつつも、権限の委譲先の戦略やマネジメントをフォローできておらず、丸投げになっているのではないか
- ・ 行政もそうだがそもそも京都の特徴として、やっています、とPRしないおくゆかしさがある。

「11. 広報、啓発、教育等本市が保有する情報の提供による意識向上、教育等の向上」

- ・ 市民への権限移譲ができていないのではないかと。ただし、権限移譲しようとしても、町内会など高齢化が進んでおり、移譲できる市民がいるのか

「12. 長期的かつ分野横断的に政策を融合した計画の推進」

- ・ 体験型観光の仕掛けをしてない等、ビジョンが明確でない。
- ・ 京都市と京都府で同じような会議が多い。
- ・ 行政の中に計画が多すぎる。

② 29年度市民生活実感調査の結果

「より良くする必要がある」(弱み)との評価が多い項目は次のとおり。

- ・ 「身近な地域で空き家が減っている。」(「4. 地域コミュニティの活性化」)
- ・ 「京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。」(「6. 経済・産業政策の推進、市の財政健全化(経営健全化)」)
- ・ 「まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。」(「9. 通信手段、輸送網、公共交通等の提供」)
- ・ 「駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。」(「9. 通信手段、輸送網、公共交通等の提供」)

③ 各種会合等でのアンケートの結果

「より良くする必要がある」(弱み)との評価における主な意見等は次のとおり。

- ・ 「地域における若年層の結びつき(年齢30~40歳代)を強化する必要があると思う」(「4. 地域コミュニティの活性化」)
- ・ 「少子高齢化については、地域全体で見守ることを今まで以上に必要かと思う。」(「4. 地域コミュニティの活性化」)
- ・ 「景観を形成するハードとしての町家の存続も大切だが、京都の文化をしっかりと押さえる経済政策がさらに必要ではないか」(「6. 経済・産業政策の推進、市の財政健全化(経営健全化)」)
- ・ 「人口が増えているのに、市バス路線の充実への配慮がないのが残念。」(「9. 通信手段、輸送網、公共交通等の提供」)
- ・ 「常日頃に地域と行政機関の協調と交流の場を求めておくこと。」(10. 信頼性のある意思決定の推進)